

いんくる

年4回発行

2017.6

No.29

障害者就業支援
事業

障害者の『働きたい』と企業の『働いてもらいたい』を応援する



「働く」について一緒に考えてみませんか

記事1 障害者雇用についての最近の話題

記事2 今、働くについて考える

公益財団法人
東京しごと財団
Tokyo Foundation for Employment Services



障害者雇用率の引上げ見込み

平成30年度は精神障害者が障害者雇用率の算定基礎に加わることで、現在の障害者雇用率が引き上げられる見込みです。

厚生労働省（東京労働局）より毎年発表されている障害者の雇用状況集計結果においては、平成28年の都内民間企業における雇用障害者数は17万3千人を超え、実雇用率も1.84%と、過去最高となり記録を更新しました。

東京都の新たな事業（難病・がん患者就業支援奨励金）

平成29年度、東京都独自の奨励金として、難病やがん患者の治療と仕事の両立に向けて積極的に取り組む企業を支援するための「東京都難病・がん患者就業支援奨励金（※1）」が新たに創設されました。

「東京都難病・がん患者就業支援奨励金（※1）」

「採用奨励金」

難病やがん患者を、治療と仕事の両立に配慮して新たに雇入れ、継続就業に必要な支援を行う事業主に奨励金を支給します。※企業規模は問いません。

「雇用継続助成金」

難病やがんの発症等により休職した労働者を、治療と仕事の両立に配慮して復職させ、継続就業に必要な支援を行う中小企業事業主に助成金を支給します。

さらに、復職時に治療と仕事の両立に配慮した勤務・休暇制度などを新たに導入する場合、助成金を加算します。

引用：東京都のホームページより

トップページ > 都政情報 > 報道発表 > これまでの報道発表 > 報道発表 / 平成29(2017)年 > 4月 > 東京都難病・がん患者就業支援奨励金を創設

こうした障害者の雇用や就業を後押しするサービスの充実や法律に基づく障害者雇用の後押しもあり、いま、障害者の雇用が右肩上がりです。



今、働くについて考える

働き方の見直し

最近「働き方改革」という言葉をよく耳にします。

長時間労働による過労自殺といった報道もあり、政府や民間企業でも従業員のライフワーク・バランスを意識した制度の充実や効果的な運用を目指した取組が大小様々なレベルで行われています。

こうした背景には、少子高齢化に伴う労働力人口の減少や消費活動の急激な成長が見込めないことなどにより、企業経営の厳しさが増していることなどがその一因として挙げられています。つまり、消費活動が鈍化すれば、企業の収益は上がりにくく、人件費を含めた経費を削減しなければなりません。これは一人当たりの業務負担が増え、長時間労働やサービス残業につながりやすく、疲弊した社員の離職を防ぐためにも、働き方を含めた経営改革を行う必要があるのです。

また、このような状況が続くことによって、社員の意識も徐々に変化し、責任だけが増える管理職になりたがらないとか、収入よりもプライベートな時間を大切にできる職場に魅力を感じる世代が増えつつあるのです。



労働力需要に高まり

優秀な人材の流出を防ぎ、働き手の確保を実現するためにも「働き方改革」に今後ますます活発に取り組む企業が増えてくるでしょう。魅力がある企業であることをアピールし、これまで採用しなかった人材の採用も検討することになります。これがいわゆるダイバーシティにもつながってくるのです。法定雇用率引上げの背景も大きいですが、貴重な戦力として、障害者の採用を考える企業も増えてきているのです。

働くってなんだっけ

さて、改めて「働く」について考えてみたいと思います。みなさんは何のために働いていますか？何のために働きたいと思っていますか？

内閣府の「国民生活に関する世論調査（平成28年7月実施）」によると、働く目的について、半数以上が「お金を得るために働く」と回答し、「生きがいを見つけるために働く」や「社会の一員として、務めを果たすために働く」などを大きく引き離れた結果が出ています。また、理想的な仕事については、「収入が安定している仕事」が最も多く、次いで「自分にとって楽しい仕事」となり、「高い収入を得られる仕事」を大きく引き離れた結果となりました。

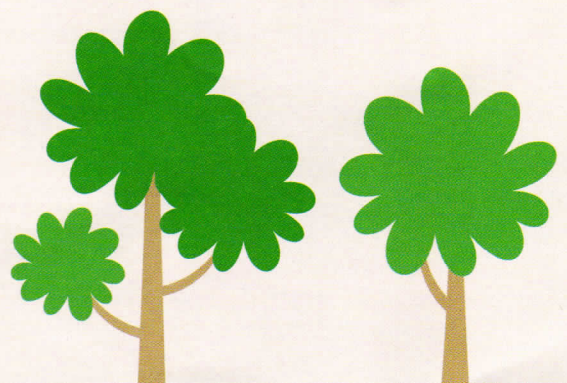
つまり、理想的な働き方は、「お金がないと困るが、必ずしも高収入である必要はなく、できれば自分にとって楽しい仕事がしたい」ということでしょうか。



あきらめることへの慣れ

これらの世論調査結果に対して、「そうそう」と共感している方もいるかもしれません。

でも不思議に思うことがあります。様々な夢や希望をもって、勉強や学問と向き合い、就職すれば、一生懸命仕事を覚えなくてはとがむしゃらになって働き、いつしか部下ができるようになると、もっと人間として成長しなくてはと、さらに朝から晩まで働き続けるように。夢を実現させている場合、このような状況を楽しめる人もたくさんいるかもしれませんが、そうではない人たちがいるのはなぜでしょうか。もしかしたら、仕事では長時間労働、さらにプライベートでも多くのことを抱え込んで生きていると、やるべきことが多すぎて、大変な現実をうまくやりくりすることを重視するようになり、かつて楽しい仕事があったとがんばってきたはずが、いつの間にか収入が得られればそれによしと、仕事に対する楽しさや、やりがいなどを諦めてしまうのではないのでしょうか。



支援の輪を広げていくことの大切さ

ここである記事を紹介します。

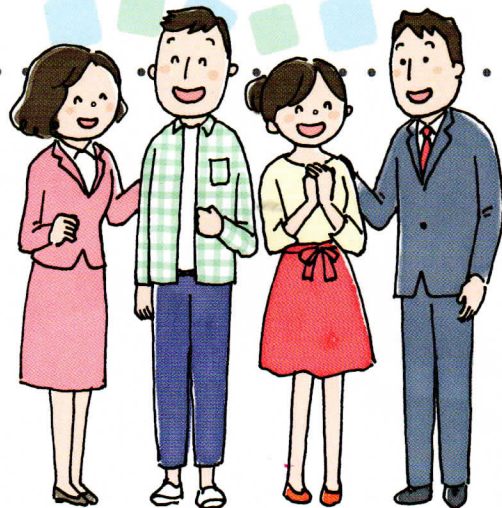
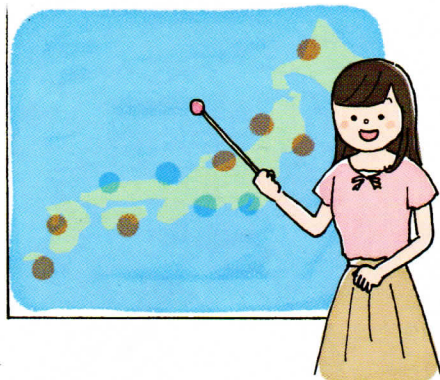
2017年3月上旬、フランス通信社の「AFPBB News」において、「ダウン症の仏女性、念願のお天気キャスターに」というタイトルの記事（※2）を目にしました。

同記事によると、ダウン症候群のフランス人女性が、念願だったテレビのゴールデンタイムで天気予報を伝えるという夢をかなえることになったのです。彼女をサポートしている擁護団体がダウン症について国民の意識を高める目的でソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下「SNS」という。）を利用し、本人が「夢は天気予報を伝えることです」と語りかけるメッセージを掲載したことが多くの方の共感を集め、フランスの国営放送のキャスターの目にもとまり、同局の気象情報業務を担う部局に伝えたことから、彼女の夢をサポートしようという動きにつながったのです。

「だからみなさん、SNSを活用しましょう」といいたいわけではありません。後日掲載された記事（※3）によると、天気予報の放送前に同局は、セリフを練習したり、メイカップをしたりする彼女の姿を紹介。はにかみながらも感激した面持ちで週末の天気の詳細を伝え、放送を見た多くの視聴者に感動を与えたそうです。慣れない取組や人前で話すことなど、短期間の練習もとても大変だったことが想像できます。夢の実現にはなによりも本人の努力が不可欠です。

しかし、本人だけが技術を磨いても、実現が難しいこともたくさんあります。もしかしたら天気予報のキャスターなんてできないと思っていた人の方が多くいたかもしれません。現実的に考えていたら、できないと考えるほうがふつうでしょう。でも、夢を持つ彼女の周りに支援の輪が広がり、夢を実現したこの出来事は、多くの障害者を勇気づけたはずで

SNSは情報を伝える手段の一つにすぎません。これは「みんなで同じ気持ちで取り組むこと」と「ひとりではできなくても多くの力で支えること」で実現できる世界が広がるということが証明されたひとつの事例なのです。



失敗は成功のためのデータ集め

もし、できない理由を見つけて悩んでいるなら、一緒に考えてみませんか。できることから少しずつ始めてみませんか。

東京しごと財団では、障害者の働きたいと企業の働いてもらいたいを応援しています。自分だけで悩まないで、助けてくれるサービスや人を一緒に探しましょう。しごと財団がお手伝いをします。障害者雇用をしている余裕はないと、障害者雇用納付金を支払う決断をしていないでしょうか。就職活動がうまくいかず、時間ばかりが過ぎ、障害特性上難しいから仕方がないと自分に言い聞かせたりしていないでしょうか。誰かが言っていました。「失敗は成功のためのデータ集め」と。少しだけ勇気を出してみませんか。「どーせ無理」「やっても無駄」と思わずに、「話を聞くだけならできるかもしれない」とまずはお問い合わせください。

<記事引用元>

【※2】<http://www.afpbb.com/articles/-/3120820> (2017年03月09日 19:56)、【※3】<http://www.afpbb.com/articles/-/3121504> (2017年03月15日 16:25)

〈発行〉(公財)東京しごと財団 障害者就業支援課 企画普及係

〒102-0072 千代田区飯田橋 3-10-3 東京しごとセンター 8階
電話 03-5211-2681 FAX 03-5211-5463
URL <http://www.shigotozaidan.or.jp/shkn/>



【個人情報の取扱いについて】

公益財団法人東京しごと財団では、「個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第57号)、「厚生労働省所管分野における個人情報保護に関するガイドライン」及び関係諸法令等の遵守徹底を図るとともに、個人情報を適切かつ安全に取り扱うため、個人情報保護基本方針を制定しています。個人情報の取扱いの詳細はホームページ又は窓口でご確認ください。

